

令和3年12月16日  
教育長答弁実録  
（教育委員会）

（問）県立高等学校の教育環境の向上について

デジタル技術の活用は、都市部と中山間地域の教育環境格差の是正を図る取組の一つとして有効と考える。一方で、部活動において生徒数が少ないために希望する部活動ができないなど、デジタル技術だけでは解消できない課題もある。

そこで、中山間地域の県立高等学校が、地元可愛され、選ばれ続けるためには、そうした課題を解消し、教育環境の魅力を更に伸ばしていかなければならないと考えるが、統廃合等の対象となる基準ぎりぎりの危機的状況下で、具体的かつ効果的な取組について教育長に伺う。

（答）

中山間地域に所在する県立高等学校につきましては、「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画」を踏まえ、地域や学校関係者の支援を得ながら、生徒に選ばれる、魅力ある学校づくりに取り組んでいるところでございます。

また、「過疎地域持続的発展方針」におきましても、地域の内外から選ばれる魅力ある学校となるための特色づくりを支援するとともに、地域を越えた相互交流や多様な学びの選択肢を提供できるよう、デジタル技術の活用を推進することとしております。

このため、中山間地域における魅力ある学校づくりを進められるよう

- ・ 生徒一人一人のニーズに応じたきめ細かな学習指導
- ・ 地元企業等と連携した特色ある教育活動
- ・ 他の地域の学校にはない部活動の実施

など、それぞれの学校や地域の強みを生かした取組を進めているところでございます。

例えば、向原高等学校におきましては、生徒が過疎化・高齢化などの地域の課題解決に向け、地元NPO法人からドローンの活用方法を学習したり、女子ハンドボール部が地元実業団OBの熱心な指導を受け、初めて全国大会出場を果たしたりするなど、地域と連携しながら、地域に愛され、選ばれるための、新たな取組を進めているところでございます。

次に、デジタル技術の活用につきましては、遠隔教育システムを導入し、本年10月から都市部の高等学校の教員が中山間地域の高等学校の生徒にオ

ンライン授業を行ったり、中山間地域の複数の学校をつないで合同授業を実施したりするなど、順次、取組を進めております。

例えば、広島国泰寺高等学校の地理専門の教員の授業を、地理を専門とする教員がいない佐伯高等学校の生徒がオンラインで受講する取組などを行っているところでございます。

今後は、より多くの生徒に質の高い学びを提供できるよう、令和5年度の遠隔授業による単位認定を見据えて、授業の運営方法などの検証を進めていくこととしております。

教育委員会といたしましては、こうした取組を積極的に進め、中山間地域に所在する県立高等学校の教育環境の魅力向上に努め、地元選ばれ続ける学校づくりを進めてまいりたいと考えております。